

1 学校教育目標
(1) 【た】高い志と誠実さを持ち、世のため人のために貢献できる資質・能力を育成する。
(2) 【ま】真面目さとチャレンジ精神を持ち、問題や課題に立ち向かう資質・能力を育成する。
(3) 【な】仲間とともに切磋琢磨し、豊かな知性と感性を磨き続ける資質・能力を育成する。

2 本年度の重点目標																				
(1) 教育スローガン 夢実現・未来への挑戦～知性と感性を備えた若駒たれ～																				
(2) 教育目標の実現に向けて																				
(ア) 健全な心身の育成																				
・教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育を徹底する。																				
・体験学習・インターンシップ等を通じて、職業観・勤労観を育成する。																				
・特別活動や総合的な探究の学習の充実により、豊かな情操と人権を尊重する心を育てるとともに生命を大切にする態度を育成する。																				
(イ) 学力の向上と進路指導の充実																				
・一人一人の学力や個性に応じた「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。																				
また、「玉定チャレンジ」等の個別指導を充実させ、自学できる生徒を育てる。																				
・授業時数確保と、出席率向上に努める。特に学校行事等への積極的な参加を促す。																				
・キャリア教育や面談等を通して就業を促し、早くから将来の目標を設定させ、夢実現に向けて最後までやりきろうとする姿勢を身につけさせる。																				
(ウ) 地域や保護者に信頼される学校づくり																				
・仲間意識を高めるとともに、自己有用感を高め、一人一人に自信と誇りを持たせる教育を実践する																				
・愛情と情熱を基調とした職員・生徒間の信頼関係に立ち、生徒とともに成長する姿勢で日々の教育実践を行う。また、教育者としての使命と責務を自覚し、教員同士が教えあうことで力量を高めていく。																				
・地域の特性を理解し、中学校との連携や地域の資源を活用した教育実践を進める。																				
(3) 玉名高校生に身につけさせたい「9つの資質・能力」																				
<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">校訓</td> <td style="text-align: center;">至誠 (誠実さ)</td> <td style="text-align: center;">剛健 (たくましさ)</td> <td style="text-align: center;">進取 (先進性)</td> </tr> <tr> <td>資質・能力</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td style="text-align: center;">① 肯定力</td> <td style="text-align: center;">② 挑戦力</td> <td style="text-align: center;">③ 探究力</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td style="text-align: center;">④ 想像力</td> <td style="text-align: center;">⑤ 持続力</td> <td style="text-align: center;">⑥ 協働力</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力、人間性等</td> <td style="text-align: center;">⑦ 貢献力</td> <td style="text-align: center;">⑧ 突破力</td> <td style="text-align: center;">⑨ 創造力</td> </tr> </table>	校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)	資質・能力				知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力	思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力	学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力
校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)																	
資質・能力																				
知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力																	
思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力																	
学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力																	
【至誠】 ものごとを「肯定」的に捉え、よりよい世界のあり方を「想像」しながらその実現に向けて「貢献」しようとする「誠実さ」を備えさせる。																				
【剛健】 「挑戦」することをおそれず、試行錯誤しながら取組を「持続」し、限界「突破」に向けて最後までやり抜こうとする「たくましさ」を備えさせる。																				
【進取】 ものごとの本質を「探究」するために、他者と「協働」しながら課題に取り組み、新たな解決策を「創造」しようとする「先取性」を備えさせる。																				

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安心・安全な学校づくり推進 業務改善・働き方改革	施設の安全確保と緊急時の安全確保	①安全点検による確認と危機管理マニュアルによる安全意識の向上に取り組む。 ②仮設校舎の危険箇所と避難経路を確認する。	①安全点検表で年2回確認し、危険箇所はすぐに改善する。 ②救急救命講習や防災避難訓練等を早期に実施し、緊急時の対応を確認する。	A	【成果】 ・施設の安全点検を行い問題はなかった。 ・仮設校舎内で、夜間停電を想定した避難訓練を行った。 【課題】 校舎移転に伴う危機管理マニュアルの点検。
		業務の効率化と校務の平準化	①ICT等を活用して業務の効率化を図る。 ②校務の平準化を図るなど負担を軽減する。	①ICT研修でスキルアップを図る。特に百問繚乱を活用して採点業務を効率化する。		B

				②校務分掌の業務内容削減と効率化を念頭に見直しを行うことで、公務の平準化を図り、改善状況を検証する。		【課題】 限られたスタッフのなかで、感染症などにより数日間欠勤した時、または複数欠勤の時のフォローが難しい。 ・ICTに関する専門的業務が、限られた職員しかできない。
学力向上	授業の充実 個に応じた学習指導	公開・研究授業の実施と授業評価の充実	基礎学力向上を根底に据えた「わかる授業」の実現のための授業作りに努めるとともに、授業評価を充実させ授業改善を進める。	①公開・研究授業を積極的に行い、助言や意見交換を通じ、自己研鑽に努める。 ②生徒アンケートや職員の意見交換をふまえて、授業や評価の年間計画を検証・改善する。	A	【成果】 ・公開授業期間に10人の来校者があった。また年間で19人の学校見学があった。 ・生徒による授業評価アンケートを2回実施した。 【課題】 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善に取り組む。
		きめ細かな指導の充実	生徒の進路目標や授業における生徒の到達度を把握し、生徒の状況に応じた指導方法の工夫・改善に取り組む。	個に応じた適切な評価をもとに、教科担当者が定期的に指導方法を改善することで、生徒各自の目標を高次な状態で達成させる。	A	【成果】 小人数を活かして、全ての教科担当者が生徒の状況を共通理解することで、個別指導を充実させた。 【課題】 ICTなどを活用して、生徒の主体的学習活動を工夫する。
キャリア教育 (進路指導) 生徒指導	進路意識の高揚	進路目標設定の取り組み	①卒業予定者の進路先決定100%を目指す。 ②各種の資格取得を促し、生徒に達成感を得させるとともに自己肯定感も向上させる。	①各種説明会への積極的な参加を促す。 ②担任を中心に他の職員とも面談を重ね、就業意識の向上を図る。 ②玉定チャレンジ(資格試験のための補習)への参加を促す。資格試験情報を生徒へ伝え受験を促す。	B	【成果】 ・進学希望の生徒1人が志望校に合格した。 ・玉定チャレンジで学力向上、資格取得に向けて生徒が取り組んだ。 【課題】 就職への意識が低い生徒もいて、アルバイト継続で満足する傾向がある。就労に向けてさらに意識を向上させることが必要である。
		キャリア教育の推進	①個別面談等を通して就業を促し、就業率70%を目指す。 ②生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な希望を持ち、進路意識が高まった状態を目指す。	①公共職業安定所からの求人情報等を随時提供する。就業未経験者には、特にインターンシップへの参加を促す。 ②職業講話やガイダンス(就職・進学)を実施し、生徒の意識向上を図る。	B	【成果】 進路ガイダンスと就職ガイダンスを実施し、就業意識の向上を図った。 【課題】 インターンシップの希望は2人で、最終的に1人だけの参加となった。さらに働くことへの価値観を培う取り組みが必要である。
	心豊かな人格の育成 交通安全教育の徹底	基本的な生活習慣の育成と自主自律の精神の育成	①丁寧な挨拶、時間の厳守、問題行動の未然防止につとめる。 ②喫煙・飲酒等の問題行動、盗難事案発件数「0」を目標とする。	①全職員の共通理解と情報共有、共通実践で取り組む。 ②家庭と連携を図り、問題行動に対して早期対応に努める。	B	【成果】 ・担任を中心に、生徒や保護者との連携を密に図りながら教育活動を進めることができた。 ・生徒会執行部の自主的な活動により、各行事が充実したものとなった。 ・犯罪防止の生徒研修を3回実施した。

			③生徒会執行部を中心に各種行事の企画・運営を充実させる。			【課題】 特別指導事案が3件。規範意識、犯罪防止意識を高める取り組みが必要。
		交通安全意識の向上	①交通ルール、交通マナーを遵守させ、事故、違反ともに「0」を目標とする。 ②交通指導の徹底。	①生徒指導部が企画・立案し、玉名警察署と連携して交通安全教室を早期に実施する。 ②日々の登校指導で、交通指導と挨拶運動に取り組む。	B	【成果】 交通安全教室では2本の動画を鑑賞し、交通安全意識の向上に効果が得られた。 【課題】 今後も日々の登校指導で交通指導・挨拶運動を継続していく。
人権教育の推進	推進体制の機能強化 命を大切に する 心を育む指導の充実	基本的認識の深化及び職員研修の推進	「熊本県人権教育啓発基本計画」の着実な推進を図り、職員の人権教育に対する認識を深め、あらゆる場やあらゆる機会をとおして人権意識の向上を目指す。	①全日制と合同で人権教育校内研修を実施し、職員間の共通認識の徹底を図る。 ②校外人権教育研修に全職員1回以上参加し、最新の課題を学ぶ。	A	【成果】 職員研修や校外研修にすべての職員が参加して意識が向上した。 【課題】 今後も研修を充実させていく。
		ホームルーム活動、教科指導における取り組みの推進	ホームルーム活動や各教科の授業において、命を尊重する題材に取り組む。	①「命を大切に心を育む」をテーマに、ホームルームや全教科の授業で、日頃の言動を振り返る場を設定し、指導する。 ②生徒への配慮事項等について、職員間で共通理解を図る。	A	【成果】 3回の人権教育と2回の主権者教育で、人権意識の啓発、他人への思いやり、自己肯定感の育成を図った。 【課題】 命を大切に心を育む取り組みを続け、内容を常に検討する。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応 家庭との連携強化	いじめを防止するための日常的な取り組み、起きた時の適切な対処	①いじめ防止基本方針等の理解促進と、心のきずなを深める月間をはじめ、年間を通した啓発活動が充実した状態を目指す。 ②生徒が互いを思いやり、認めあう人間関係を作り、いじめを見逃さない、許さない体制を作る。いじめが起きた時には、迅速・適切に対処する。	①「心のアンケート」の実施や日頃のコミュニケーションを通じて、いじめの早期発見・迅速な対応に努める。 ②ホームルームや生徒会活動で、仲間づくりを目的とした活動をする。 ②いじめが発覚した場合は情報集約担当者を中心に迅速・適切に対処する。	A	【成果】 ためらわず相談することや、他者を思いやる心を持つことの重要性を継続的に伝え続けて、いじめの防止を図った。いじめ事案は現在のところ起きていない。 【課題】 特性のある生徒への理解と認め合う人間関係を、より一層深める。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等で保護者・地域への啓発を図る。	人権教育講演会等を保護者に周知して、参加を促す。	B	【成果】 ホームページで講演会等の内容を掲載して情報の発信を行った。 【課題】 事前に保護者への周知ができなかったため、「すぐーる」等を活用して周知に努める。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	育友会との連携 開かれた学校づくり	育友会総会・学校行事での連携の充実	育友会総会や学校行事について、育友会と事前に話し合い、円滑な運営と連携をめざす	①育友会総会、小岱山一周大会への協力を進める。 ②育友会だよりの作成において、広	A	【成果】 ・文化祭や小岱山一周大会への保護者の協力により、充実した学校行事となった。

				報委員会の活性化に協力する。		・ブログを通して情報発信を行っている。(ブログは1月までに33回発信) 【課題】 さらに広報を活性化させる。
		関係機関との連携	総合型コミュニティ・スクールをはじめ、様々な関係機関との連携により、本校の魅力化等に向けて、活発な議論が行われる状態を目指す。	①年間2回以上、学校運営協議会を開催し、各委員から、幅広く意見を伺い、学校運営に生かす。 ②地元自治体(玉名市他)との連携を強化する。 ③上級学校(大学や専門学校)との連携を強化する。	B	【成果】 全職員で、地域の社会福祉施設の見学を実施し、連携が深まった。 【課題】 今後も、関係機関との引継ぎと連携を密にして、特性のある生徒をはじめ、全ての生徒を見守っていく。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応 健全な心身の育成	個々の生徒の正確な実態把握と支援	①支援の必要な生徒に対して支援計画、指導計画を作成し活用する。 ②各種研修への参加を促し校内研修を実施する。	特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用して全職員が困り感を持つ生徒や支援の必要な生徒の状況を把握し、適切な支援する。	A	【成果】 個別の支援計画を作成し情報共有を図った。地域の関係機関と連携して支援できている。 【課題】 個別の支援計画と指導計画を、今後も積極的に活用する。
		生徒自身が自らの健康状態に関心を持てるようになる	①健康診断の全員の受診と治療率を上げる。 ②各関係機関に依頼して薬物乱用防止教室、性教育、食育講座等を開催する。	①生徒の健康診断を早期に実施し、終了後はすぐに治療勧告を配付する。また保健便りの発行や生徒集会時の連絡で受診を促す。 ②各関係機関と連携し、講座等を計画する。	A	【成果】 ・健康診断は全員参加した。 ・保健だよりを通して健康増進と食育も啓発した。 【課題】 健康診断後に確実に受診させる。
保健環境教育	環境美化と環境教育の推進	生徒の美化意識を育成する	学校版環境ISOの目標達成や、清掃の時間を設けて職員も一緒に清掃活動をすることにより、環境美化の行動化を図る。	補食の牛乳パックのリサイクル継続、定期清掃での意識付けと行動化を図る。	A	【成果】 ・牛乳パックのリサイクルは継続できている。 ・職員清掃は定着している。 【課題】 生徒清掃は取組に差がある。

4 学校関係者評価

(1) アンケートにおいて「入学してよかったか」という設問は、教育活動の根幹に関わる最重要項目である。概ね肯定的な回答を得ているが、わずかに見られる否定的な回答(「そう思わない」等)を看過せず、その背景や要因を検証し、次年度の支援体制に反映させる必要がある。

(2) 生徒・保護者の評価に比べ、教職員の自己評価が厳しい傾向にある。これは現状に満足しない向上心の表れと捉えられるが、中高一貫教育特有の課題や、定時制からも課題とされた人員配置の問題など、現場の努力のみでは解決困難な構造的問題も含まれている。

(3) 災害等の緊急時における迅速な連絡体制の整備を求める。特に遠方からの通学者に対し、早期の休校判断や情報伝達を徹底してほしい。また、広域かつ公共交通機関が限られた地域からの通学を考慮し、スクールバスの導入を検討すべきである。単独校での運用が難しいければ、近隣校との共同運行なども視野に入れて生徒の利便性向上を要望する。

(4) 「命を大切にすることを育む指導」や「いじめの未然防止と早期発見」に関する教職員の自己評価がやや低い点は、目標の共有が不十分ということもあるかもしれないが、先生方が常に危機意識、問題意識を持ち続けているということの表れともいえる。

(5) 仮設校舎から新校舎への移転に伴い、図書館の物理的環境が大幅に改善される。この機会を捉え、最新の学術的流行を反映した雑誌や、高度な専門書などを拡充してほしい。

5 総合評価

【学校経営】

校務分掌の継続的な見直しにより、教職員の負担軽減を図ることができた。一方で、少人数体制のため、病気休暇等が発生した際のバックアップ体制に課題が残る。また、新校舎への移転を機に、避難経路の再確認および危機管理マニュアルの早期改訂が急務である。

【学力向上】

各教諭の創意工夫により「個別最適な学びと協働的な学び」を進める授業改善が定着しつつある。年2回の授業評価アンケートの結果を精査・還元し、さらなる指導力の向上に努める。

【キャリア教育】

4年次生への個別就職支援を継続しているが、安易なアルバイト継続を希望する生徒への粘り強い進路指導が不可欠である。低年次におけるインターンシップ希望者の少なさを踏まえ、就業意識を醸成する啓発活動を強化する。また、本年度の進学実績を機に、進学ガイダンスの充実や学習支援の拡充を図る。

【生徒指導】

登校指導、補食指導、健康観察を通じ、生徒の微細な変化を捉える指導を徹底した。担任と保護者の密な連携により早期に的確な対応ができた。防犯教室を3回実施し、警察署からの講話や動画を交えながら、防犯意識の向上を図った。仲間づくりを意識した生徒会活動が実施できた。

【人権教育の推進】

年間計画に基づいた職員研修により、教職員の人権意識と対応能力の向上が図られた。ホームルーム活動では発達段階に応じた取り組みを実践し、他者への思いやりや自己肯定感の育成につながっている。

【いじめ防止等】

全職員による日々の情報共有と、個に応じた丁寧な対応を徹底した。「心のアンケート」を3回実施し、本年度もいじめ発生件数はゼロであった。地域人材を活用した人権講演会等を通じ、差別を自分事として捉える意識の変容が見られた。

【地域連携】

「定時制ブログ」を迅速に更新し、定時制の教育活動の情報発信に努めた。また、地域人材を活用した食育や性教育など、専門性を活かした外部連携授業を展開し、教育活動の質的向上を図った。

【特別支援教育】

個別の指導計画に基づく研修を深め、生徒の特性に応じた支援の方向性を全職員で共有した。スクールカウンセラーや外部専門機関との組織的な連携により、多角的な支援体制を構築することができた。

【保健環境指導】

リサイクル意識の向上は見られるが、日常の清掃活動には個人差が残る。また、健康診断受診後の治療の受診率向上が喫緊の課題であり、家庭への働きかけを強める必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 危機管理体制の再構築と少人数体制の組織的課題

新校舎に最適化した安全確保と、教員欠員時でも授業や公務を止めない持続可能な体制づくりが必要。特定の教員しか把握していない業務を減らし、急な欠勤時もチームでフォローできるよう、校務のクラウド化や引き継ぎシートの整備をさらに進める。新校舎での動線に合わせた避難訓練を早期に実施し、危機管理マニュアルを実態に合わせて更新する。

(2) 『個別最適な学び』の深化

ICT活用や工夫改善を継続し、質の高い定着を目指す。特別支援教育で得た知見（視覚支援や構造化）を全授業のユニバーサルデザイン化に応用し、より「わかりやすい授業」を組織的に展開する。

(3) 就職希望者の意識向上と、進学への組織的対応

低年次からの勤労観の育成と、進学希望を増やす指導が必要。卒業生や地域企業によるワークショップなどを行い、インターンシップへの心理的ハードルを下げる。本年度の進学指導をモデルケース化し、主に推薦入試に向けての支援体制を強化する。

(4) 問題行動の抑制と、生徒の自律的な成長を促す指導

登校指導や清掃など、望ましい行動ができた際に肯定的なフィードバックを行う。生徒会活動での仲間づくりをさらに一歩進め、生徒同士が悩みを聞き合ったり、新入生をサポートしたりする「役割」を与えることで、自己肯定感と所属感を高める。

(5) 特別支援教育の日常化

現在は全職員での共有ができていないが、少人数ゆえに担任など特定の教員に負担が偏るリスクがある。困難な事例だけでなく、グレーゾーンの生徒についても短時間で情報共有する「ミニ・ケース会議」を日常的に実施する。また、個別の支援計画を授業や集団指導にどう落とし込むかを研究する。（上記授業のユニバーサルデザイン化など）

(別紙様式 4-1 及び 4-2) 学校評価表記入要領

1 学校教育目標

教育活動の全体を通じ、どのような生徒を育てていこうとするのか、学校で定めた（あるいは以前から定めてある）教育目標を記入してください。

2 本年度の重点目標

学校教育目標、現状分析を基に、今年度重点的に取り組む事柄を記入してください。

3 自己評価総括表（1、2を踏まえて設定する。）

○評価項目 : 評価の対象とする項目を記入してください。

例) 大項目: 学校経営 → 小項目: 開かれた学校づくりに取り組む。

○評価の観点 : 評価項目（小項目）を具体化したものを記入してください。

例) 公開授業の推進

(一つの評価項目に対して複数の評価の観点を設定してもかまいません。)

○具体的目標 : 可能な限り数値化するなどして、具体的な目標を記入してください。

例) 年間3回以上の公開授業を実施する。

○具体的方策 : 具体的な目標を達成するための手段・方策を記入してください。

例) 教務部が立案し、学期に1回学校全体で取り組む。

○評価 : あらかじめ定めた評価基準に基づき、評価項目の達成度を評価する。

(A～Dなどで記入してください。)

○成果と課題 : 評価項目について、成果として評価できる点、今後の課題として浮かび上がった点を記入してください。

例) 年間3回の公開授業を実施し、学校全体として取り組むことができた。ただし、保護者の参加が少なかったため、開かれた学校づくりという視点からは課題が残った。

4 学校関係者評価

自己評価の結果について、「学校関係者評価委員会」で出された意見を記入してください。

記述式で、評価された点や課題として指摘された点が分かるよう、簡潔に記入してください。

自己評価総括表のすべての評価項目について触れる必要はありません。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標、2 本年度の重点目標、3 自己評価総括表に対する評価を記述式で記入してください。自己評価総括表のすべての評価項目について触れる必要はありません。

6 次年度への課題・改善方策

3 自己評価総括表、4 学校関係者評価、5 総合評価の結果から、次年度に取り組むべき課題を簡潔に記入し、改善方策についても、年度末の段階で考え得ることを記入してください。